

理科(小)部会 理論研修会 終了報告

テーマ	今年度の研究をふまえた授業づくりについて	
日時	令和8年6月12日(金)	
会場	石狩教育研修センター	
講師	石井 保成 氏 (江別市立大麻小学校教諭) 湯浅 萌美 氏 (江別市立江別第一小学校教諭)	
参加者	34名	
研修会 の 様子		研修の前半は、今年度の研究の柱である「理科の見方・考え方」に焦点を当てた研究概要を石井教諭の方から行った。理科の見方・考え方を働かせた授業実践について、具体的な発問例や指導のアイデアを提示しながら説明し、研修を深めた。湯浅教諭からは、指導案の形式について説明を行った。
		後半は、各学年に分かれ、授業アイデアの交流や場面の検討を行った。アンケートでは、この話し合いの時間があってよかったと多数意見が寄せられた。以下、各学年の話し合いの様子である。 (3年生部会) 過去の指導案をもとに、授業場面を検討。提案を受け、実験計画を本時にするかもしれないという市町村もあった。
		(4年生部会) 単元が4時間で授業場面が限られるため、授業場面の選択に苦慮している様子。筋肉の様子を伝える教材によいものはないか検討していた。
		(5年生部会) 実験場面での授業を考えている方が多く、実験器具についての議論が活発に行われた。昨年度の実技研で紹介された流水実験の注ぎ口の紹介や、今までの実践方法の交流等をしていた。
		(6年生部会) 今年度の研究を踏まえ、見方・考え方を働かせるにはどんな導入がよいかで議論が盛り上がる。理科で学んだことが実生活につながるように、温泉や調味料等の身近なものを取り上げたらどうかという考えも挙がった。3年生同様、実験計画場面で本時を考える案もあった。

